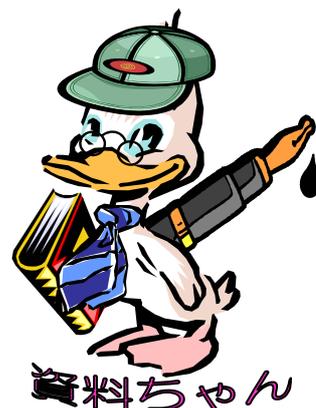


資料室 ニュース Vol. 23

2005年4月27日発行



開館4年目を迎え、震災関連資料も充実してきました。
今回は新たに公開された資料を中心にをご紹介します。



NEWS

「阪神・淡路大震災 - 犠牲者の記録 - 」を公開しています

阪神・淡路大震災から10周年を迎え、被害の悲惨さ、厳しい現実を語り継ごうと、遺族から寄せられた犠牲者の顔写真や生前、被災当時の様子、想いをつづった「阪神・淡路大震災犠牲者の記録」の公開を3月30日から始めました。

「神戸大学震災犠牲者聞き語り調査会」が1998年から実施している犠牲者の遺族へのインタビュー調査の結果記録も合わせて公開。現在、遺族等の了承を得られた133人の記録が人と防災未来センター2階資料室のパソコン上で検索・閲覧できます。

一人ひとりの死の記録は、生の記録でもあります。 災害とは？ 人の命とは？ 改めて考えてみてはいかがでしょうか？



<インタビュー調査の内容>

- 犠牲者の方の生前の様子
- どういう過程を経て被災されたか
- 震災当日の様子
- ご遺族の方の被災経験
- 被災した建物やその間取り
- 教訓等

阪神・淡路大震災 - 犠牲者の記録 -

資料室で公開中の「犠牲者の記録」の一部をご紹介します。

20歳・女性・西宮市

A子さんは、詩や童話が好きで、童話作家になるのが夢であった。震災の2日前に故郷で成人式が開かれたが参加しなかった。帰郷しないとわかっているにもかかわらず「成人式に振袖を用意しなかったこと」を母親は悔やむ。

大学生のA子さんはバイトをし、貯金をしていた。「大学を卒業するときに親に返すため」と友人に語っていた、という。

「もういっぺんできるものなら、生んで、育てたいなあ」と夫婦で語っている。

57歳・男性/54歳・女性・神戸市東灘区

娘の結婚を機に両親は、広い長屋に転居した。2人で映画に行く等、とても楽しそうだった。震災後、父は母をかばい、踏ん張るようにひじをついて死んでいた。母は救助時には、生きていたがその直後に亡くなった。

23歳・男性・神戸市東灘区

「高校は夜間に行き、昼間は働く」といい、実行した息子を亡くした。母親は、10年経った今も「心の中に穴が開いていて、笑い悲しみがスーと穴の中に入っていく」という。「若い人たちに語り続けてもらいたいんです。忘れないために、忘れないように。忘れてはいけませんよね」と語りかける。

29歳・女性・神戸市長田区

アパートで姉弟が生き埋めになり、弟だけが助かった。震災後、母親は心労が続き癌で亡くなり、父親も脳梗塞で入院。弟は「姉と自分が入り変わっていたら、両親は元気だったのでは」と悔やむ。

10年経ち、かなりの人たちの記憶から葬り去られている現状に「自分のこととして、真剣に考えてほしい」と弟は訴える。

50歳・女性・神戸市長田区

母親がやっとのことで避難し、自宅に戻り長女を助け出そうとするが、すでに火の海に。1年間の仮設住宅では、クーラーをつけずに夏を過ごしたが、「熱い思いをして死んでいった娘のことを思うとがまんできる」と母親は言う。震災後、次女とも結びつきが強くなった。

今でも「娘が助かっていたかもしれない」という思いが残っている。

利用者の声

- ・ 生の声に近い感触を得た。生身の人間がいることを感じる。
- ・ 一人ひとりの人間に焦点を当てた珍しい試みである。
- ・ 個人の周辺には多くの家族がいる。家族のつながりを実感した。
- ・ 火事で逃げ遅れた家族のことを想う気持ちや子どもと母親の写真に添えられた父親のメッセージが印象に残った。
- ・ パソコンでの記録は、更新できる。家族の想いを記録し続けてほしい。

阪神・淡路大震災で犠牲になられた方の記録「お名前と写真、ご遺族の想い」を募っています。なお、ご希望により非公開とすることもできます。

問い合わせ先 (財)阪神・淡路大震災記念協会 調査部 「犠牲者の記録」担当
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 ひと未来館5階
TEL 078-262-5586 (直通) FAX 078-262-5587

「個人復興史」づくりにあなたも参加しませんか？

震災の体験を未来の世代に伝えようと、個人の震災体験や写真等を記録する「阪神・淡路大震災“わたしたちの復興プロジェクト” 個人復興史」も運用を開始しています。ホームページ上でサポーターの登録後、個人の資料を入力します。その資料は、インターネットを通じて多くの人に情報発信されます。詳しくは、人と防災未来センター2階「資料室」まで。



震災対応記録収集事業

震災10年を契機に、昨年10月より約2ヵ月間に渡り、全国自治体・企業・団体等を対象に震災時の対応記録の収集を行いました。約1300件の回答があり、人的・物的支援、見舞・義援金、公営住宅の提供、教訓・反省点等が記載された対応記録等が資料室で閲覧できます。

この他、貴重な建築物の倒壊写真、震災について書かれた社史、報告書等も多く寄せられました。埋もれた資料の発掘にもつながり、震災を振り返るきっかけにもなったようです。

新着図書



題名	著者	発行
防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション	矢守克也、吉川肇子、網代剛	ナカニシヤ出版
12歳からの被災者学	土岐憲三、河田恵昭、林春男監修	日本放送出版協会
思い刻んで - 震災10年のモニュメント -	NPO法人阪神淡路大震災1.17 希望の灯り、毎日新聞震災取材班	どりむ社
地震タテ横ななめ	今村遼平	電気書院
動物は警告する！	弘原海清	隅田川文庫
NEWボランティア用語事典	日比野正己監修・指導	学習研究社
日本の地震地図	岡田義光	東京書籍
こうすれば東海地震はこわくない	井野盛夫	静岡新聞社
一人暮らしの地震対策ハンドブック	志田雅洋	新風舎